



大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
- 事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6 ユアサビル 2階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
- 会長：大越 将司 幹事：星野 実
- 広報・公共イメージ向上委員会
委員長 小倉 光夫・会報担当 石田 英世

2023年11月1日(水)
第25巻 第16号

通巻第1046号

http://www.oamirotary.com
E-mail: rc@oamirotary.com



世界に希望を生み出そう

本日の例会

- 点 鐘 会長 大越 将司
- 唱 和 四つのテスト
- ソング 奉仕の理想
- 会長挨拶 会長 大越 将司
- 幹事報告 幹事 星野 実
- プログラム
- 卓話 原 真 様
- 「命の積み木ワークショップ」

ニコニコBOX

大越 将司 会長
地区大会、ありがとうございました。
夜景をみながら、日本酒。ニコニコです。
石田 英世 会員
20年皆出席表彰ありがとうございました。これで今後休めます。
斉藤 敏夫・吉原 久男 会員
地区大会欠席して申し訳ありません。
清宮 満巖 会員
誕生日祝いありがとうございます。

例会日	10月25日	10月4日
会員数	30	30
出席	18	17
欠席	12	13
M U	0	0
免除	6	5
出席率	80.00%	73.33%

会長挨拶

大越 将司 会長



みなさん、こんにちは。霜降ということで、地域によっては霜が降り始めることとなりました。朝晩は冷え込みますので、どうぞ温かくお過ごしください。

今週土・日曜日は、2790地区の地区大会が、ホテルニューオータニ幕張で開催されました。ご参加頂いた会員皆様、ありがとうございました。

当日は、主催者・鶴沢ガバナーをはじめ、主賓として RI 会長代理で 2008-2009 年度 RI 会長の李東建 (D・K・リー) 氏をお招きして、約 1500 人が参加し、盛大に開催されました。

参加者ほとんどがマスクを外して、ロータリーソング「奉仕の理想」を斉唱した際には、「アフターコロナ。ようやく日常が帰ってきた。」と感じました。

ただ、当クラブの参加者は欠席の方もあって、8名と少なく大変残念でした。私自身 会長として地区大会に参加したのは初めてでしたが、仲間が少ないのは心細いと感じましたし、会長としての力がまだまだ足りないかと再認識致しました。

そんな私が 今回最も印象深かったお話は、東京飛火野 RC 所属の水野 功 RI 理事エレクトからお話し頂いた、『ロータリーモーメント』=忘れられないロータリーでの思い出でした。

同氏は 1989 年に 35 歳でロータリーに入会し、先輩ロータリアンに「例会は絶対に休むな」と指導されていたそうです。

したがって、例会に参加できない日はメイキャップを行っていたそうで、ある時「どうせ参加するなら、食事がおいしいところが良いな」ということで、例会場があこのホテルオークラ。東京西 RC の例会に参加したそうです。

名門クラブで当然知り合いの会員もおらず、完全アウェー状態で心細い思いをしていたところ、70 歳位の SA の方が、「水野君、よく来てくれた。今日一日、私が君をアテンドする。」と 実に丁寧に対応して下さいました。

「ロータリアンには、こんなに素晴らしい方がいるのか」と感銘を受けたそうで、名刺交換すると、その方はクリーニングで有名な「白洋舎」の相談役・五十嵐 眞氏だったとのこと。

水野氏は「だから私は、いまでも白洋舎を愛用している」と話し、会場参加者の笑いを誘っておりましたが、笑いを制止するように同氏は続けました。

「これだけ立派な方が経営している会社だから、間違いないと思って使っています」と。

ロータリークラブが発足した 1905 年当時のシカゴは、騙す騙されるが当たり前で商売における道徳心もなく、社会が大変荒廃していたそうです。

そんな時代に、「本当に信頼できる仲間」で交流しようと始まったのが、ロータリークラブの起源だと伺っております。

例会を始めとする様々な行事に参加し、会員が顔を合わせることで信頼関係が生まれ、今年度鶴沢ガバナーが掲げる「エンゲージメント」が育まれていくのだと感じました。

今回の地区大会と終了後の懇親会は、私にとっても忘れられない『ロータリーモーメント』となりました。次年度地区大会は、2025 年 2 月 8・9 日開催予定です。1 年半となりますが、みんなで次期石田・高野年度を盛り上げていきましょう。

以上で、本日の会長挨拶といたします。



清宮満巖会員おめでとうございます。

大網白里市産業文化祭

開催日時：2023年11月18日（土）
9：30～13：00

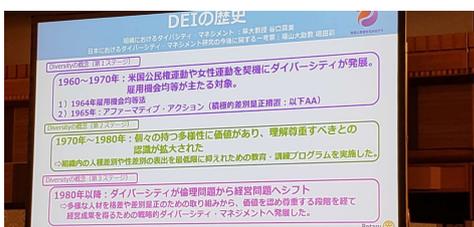
【参加予定者（敬称略）】

長谷川・星野・堀本・石田・泉・吉原
小高・大越・斉藤(幸)・西岡・清宮(満)
佐藤・関谷・四之宮・高野・山岸

ひすいかい子ども食堂開催

開催日：2023年11月26日（日）
配付時間 11：00～13：30
食材などのご協力をお願い致します。

10/22(日)開催 地区大会



開催：2023年10月21日（土）・22日（日） 於ホテルニューオータニ幕張

「絶対にあきらめない！ 地域と共に存続を目指す銚子電鉄の挑戦」

銚子電気鉄道株式会社
代表取締役

竹本勝紀様

1962年（昭和37年）千葉県木更津市生まれ 慶応義塾高校を経て慶応義塾大学経済学部卒業。県内の税理士事務所に勤務の後、平成21年に竹本税務会計事務所を開設。税理士として約500社に上るクライアント企業の税務申告のほか、経営指導を行う。

平成17年より銚子電気鉄道株式会社の顧問税理士となり、同20年社外取締役役に就任、同24年12月、代表取締役役に就任。以来、約25名の社員と共に経営再建に向けて奔走を続けている。平成28年 甲種動力車操縦者運転免許を取得。また、千葉科学大学非常勤講師として財政学を担当している。

銚子電鉄は1913年（大正2年）に地元有志によって設立された銚子遊覧鉄道をもとに、第一次大戦中に廃線となった後、1923年（大正12年）に復活した地方鉄道です。

当時は「銚子鉄道」の名称で銚子-外川間をガソリン車で運行し、開業間もない1925年には早くも電化され、電車が走るようになりました。

しかし、第二次世界大戦で1945年、銚子大空襲で車庫や変電所は被災し、一時運行不能となりました。

1948年（昭和23年）に銚子鉄道は企業再生整備法により、銚子電気鉄道として再発足し銚子鉄道から車両・施設を引き継ぎました。

通勤・通学、観光客のみならず、ヤマサ醤油の輸送業務を行う貨物路線としても活躍していましたが、高度成長期以降のモータリゼーションの波に押しされ、厳しい経営状況が続いています。

昭和40～50年頃には150万人を数えていた利用者数も平成に入ると100万人を大きく割り込み、昨今では50万人前後を推移する状況にあります。

当社のこれまでの歩みは決して平坦なものではなく、数度に亘り廃線の危機に瀕し、その都度、奇跡的な復活を遂げるといった稀有な歴史を辿って来ました。

平成10年、親会社の倒産により当社も連鎖倒産の危機を迎えましたが、副業で始めたぬれ煎餅が多くのメディアに取り上げられ、副業売上げが本業を上回る形で危機を乗り越えることができました。しかし、平成16年には親会社の社長も兼ねていた当社代表の個人的な債務をそのまま会社が背負うこととなり（形式的には社長による横領事件）、再び倒産の危機に直面してしまいました。

それまで必死に資金をつないで来たものの、債権者からはぬれ煎餅の売掛金を差し押さえられ、預金残高は減少を続け、復活への糸口は見出せないままでした。

もとより鉄道事業を維持するためには膨大なコストが掛かります。鉄道収入が減っても、コストの急激な削減は困難なため、必然的に大きな赤字が発生してしまいます。そこで多くのローカル鉄道は国や自治体から補助金を受けて鉄道事業を継続していますが、残念なことに当社の場合、先に述べた不祥事ゆえに、補助金等の公的支援を受けられないという状況に陥っていたのです。

ぬれ煎餅ブーム、再び

その頃、新たな資金調達が出来ないまま、何とかしてインターネットでのぬれ煎餅の売り上げを増やそうと、当時の顧問税理士（現・代表取締役）が「銚子電オンライン・ショップ」を急ぎ作って立ち上げました。

しかし当初の平均的な売り上げは1日1万円程度であり、過重な債務負担を考えると、もはや焼け石に水でしかありませんでした。

ところが、資金繰りがいよいよ逼迫し、今月の給料がもう払えないところまで追いつめられた時、再び奇跡が起きたのです。それは、当時の経理課長・山崎勝哉（現・執行役員事業本部長）が電車の運行維持のため必死で考えた「ぬれ煎餅買ってください。電車修理代を稼がなくなっちゃいけないんです」という異例のお願い文に端を発した、再度のぬれ煎餅ブームでした。

横領事件後に代表取締役に就任した小川文雄（故人）、労働組合委員長・常陸谷恭弘の連名による緊急要請の冒頭文として、公式サイトにこの一文が掲載されるや否や、全国から銚子電オンライン・ショップに一万五千件の注文が殺到し、これを契機として運行維持への弾みがつき、最終的に倒産の危機を回避することができたのです。

デジタルの向こう側にアナログの温かい心がある

インターネットというデジタルの世界の向こう側に、アナログな温かい人々の心がある。10枚入りで800円を超えるぬれ煎餅は、決して安いものではありませんが、毎日たくさんの方々に購入して頂き、また励ましの言葉を戴きました。

「銚子電鉄頑張れ」

「鉄道の灯を守り続けてください」

「銚子電鉄が頑張っているから、私も頑張らなくちゃ」・・・

そしてぬれ煎餅の購入のみならず、10万人を超えるお客様がわざわざ銚子電鉄に乗りに来て下さったのです。

これにより鉄道部門の赤字は減少し、副業の利益と合わせてようやく黒字基調に転換することができました。先の不祥事によって、公的支援の途を閉ざされた中、応援して下さるすべての方々の温かい心こそが、私達「銚子電鉄」にとっての「補助金」そのものだったのです。時ならぬ「ぬれ煎餅」ブームを通じて私たちが学んだことは、「人と人はどこかでつながっていること」、「苦しいときに助けを求めることは決して恥ずかしいことではないんだということ」、そして「最後の最後まで諦めないで頑張り続けることによってのみ結果が与えられる」ということでした。

どんなに現状が苦しくても、最後まであきらめずに挑戦を続けることが銚子電マンの真情であり、誇りです。この気持ちは今も社員全員の胸の内に生き続けています。